

2023年度外部研究評価委員会における主要意見及び国環研の考え方

脱炭素・持続社会研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	国際的に重要な課題であり、かつ日本としての対応が求められている課題であり、多くの研究発表や報道を通じた発表を行っていることは高く評価したい。政策や、環境に関わる科学的データとして重要であり、今後の検証も含めた議論を期待したい。	評価して頂きありがとうございます。ご期待に添えるようにこれからも必要な情報を公表し、議論していきます。
	できれば、環境研、環境省が主体となって、より脱炭素の加速に向けた政策提言を行い、政策立案、産業構造の改革、行動変容につながるようになりたい。	地球温暖化対策計画の評価などを通じて環境省に報告していますが、さらに対策が加速できるように検討していきます。
今後への期待など	狭義の公共政策だけでなく、民間部門との連携を含めたコラボを強め、実装させていただくことを積極的に進めていきたい。	社会実装に向けて民間部門との連携は重要と考えていますので、Win-Win となるような連携のあり方も検討、実践していきます。
	マクロの定量的な分析は議論の基礎である一方、それらと具体的な政策選択の間には様々な変数があるように思われるため、その間をつなげるような研究にも期待する。	コメントありがとうございます。ご指摘のとおり、本プログラムで行っているマクロな分析と現実に取り組みされている様々な対策や政策の間には乖離があることは認識していますので、そうした乖離を克服するような研究を進めていきます。
	NDC の延長では 2050 年までに脱炭素社会を実現することはできず、社会変容こそが追加費用の低減につながるとの予測に基づいて、国民一人一人の意識改革に向けての啓発を進められることを期待する。	気候市民会議に関わる所外の専門家や所内の対話オフィスなどから助言を得つつ、わかりやすい情報を従来の活字ベースの資料とともに動画やウェビナー等を通じて発信していく必要があると考えています。
	今後、熱の脱炭素化に必要な水素やアンモニアなどの導入シナリオが、より明確になり、政策に活かされることを期待する。	熱の脱炭素化については、重要な項目と考えていますので、電力とともにロードマップを明確にしていきたいと思っております。